

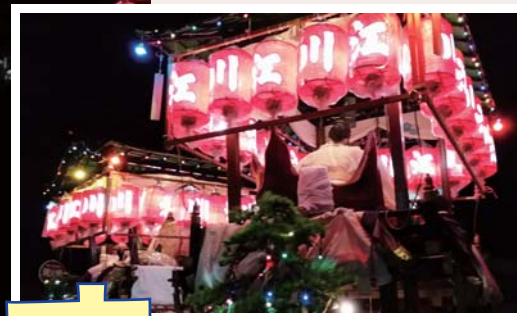


KINAN HOSPITAL
OFFICIAL INFORMATION PAPER
September 1st.2016
vol.48

「田辺祭」

川面に映る会津橋上のお笠曳き揃え

さざんくるす



笠鉦
(田辺ではおかさとも言います)

皆さんこんにちは。2016年4月から紀南病院泌尿器科に赴任致しました松村と申します。この度、本サザンクロスに寄稿する機会を頂戴しましたので、簡単ではありますが、当院泌尿器科診療の現況についてご紹介させていただきます。

泌尿器科主任部長
松村 永秀



当科は現在三名のスタッフで頑張っています。私と児玉先生と若宮先生の三名です。手術日は、水曜日が終日で金曜日は午後からのみ、また第二・第四火曜日も午後から半日手術を行っております。外来診療日などはホームページを参照して頂ければ幸いです。児玉先生は、泌尿器科専門医であり、手術や外来など概ね何でも独立して診療を行っています。非常に温厚な先生で患者さんにも医療スタッフにも人気があります。何よりイケメンです。いろんな面で、私にはないものを持っているので本当に助かっています。若宮先生は、泌尿器科専門医は未取得の若手医師です。私が大学勤務時代に入局してくれた先生であり、紀南病院での二年余り勤務を経て目覚ましく成長しております。まだまだ修練中の身ではありますが、患者さんからの信頼の厚い先生です。現在、大学院生でもあり今秋には和歌山医大附属病院に転属となる予定で、私としては寂しい限りです。交代で若手医師が当院に転属予定ですので引き続き三人で頑張っていくと思っています。

当院泌尿器科の診療についてです。私のモットーは、この地域で治療を完結して欲しいと希望されている患者さんに対して、“標準レベル以上の納得してもらえる泌尿器科診療”を提供させて頂くというものです。最近では交通の利便性が向上していますし、インターネットなどからの情報入手も容易となり、最新の治療方法などに関して患者さん方の知識量も飛躍的に増大しているように思います。そんな背景の下、より大きな町のより大きな病院での診療を希望される方も多くなってきております。それはそれで結構な事だとは思いますが、しかし一方で、お仕事や農業が忙しいので地元の病院での治療を希望されたり、ご高齢であるため近隣の病院での治療を希望されたりする患者さんも少なからずいらっしゃると思います。むしろ地元の病院で最新の医療を提供することができれば、喜んでくださる患者さんも数多くいらっしゃるのではないかと考えています。泌尿器科領域においては、前立腺癌を代表として、膀胱癌や腎癌などの悪性疾患に罹患する患者さんが増加の一途をたどっています。当科では、これら泌尿器科悪性腫瘍に対してはいずれも最新の腹腔鏡手術での対応が可能です。前立腺肥大症や尿路結石に対する最新のレーザー手術など都会の大病院

に遜色のない医療を提供できる設備と技術を有しております。残念ながら私が大学で従事してきたロボット手術はできませんが、それ以外はすべて当院で自己完結できるものと自負しています。

当院に着任して5か月目に入りました。当院のシステムやルールなどに慣れるまでの最初の2か月間は結構しんどかったです。前職の大学病院勤務が長かったため、シフトチェンジするのに予想以上に時間を要したような気がします。また、単身赴任が初めての経験で、生活の変化がストレスの一因になっていたようにも思います。最近では、環境の変化についてはすっかり慣れ、田辺での自由な暮らしを謳歌するようになりつつあります。職場では、他科の先生方や看護師さんをはじめとする医療スタッフに、これまでずいぶん迷惑をかけてきたようにも思いますが、寛容な気持ちで見守って頂いたおかげで近頃は自分なりの仕事のスタイルやペース配分が掴めてきたように感じています。スタッフ三人の小さな所帯ではありますが、紀南・紀中地域の泌尿器科診療に貢献するべく、ぼちぼちとアクセルを踏んでいかなばと考えている今日この頃であります。皆さん紀南病院泌尿器科を何卒よろしくお願い申し上げます。

「田辺祭り」について

450年余の歴史をもつ「田辺祭り」は毎年7月24日・25日に行われる鬮鶏神社の例祭です。旧城下の各商人町から8基の「おかさ」と言われる京都の祇園祭のような笠鉦が町中を練り歩く田辺を代表する紀南地方最大の祭礼です。



「笠鉦」について

袂姿の白さの際立つ夏の日差しの中、各町からでた8基の山車(お笠)が巡行する「田辺祭」が鬮鶏神社で斎行されます。神職を始め総勢250人余が1kmの行列を作り、神輿が山車を伴って海岸に渡御する潮垢離(しおごり)、明かりが川面に照り映えて美しい会津橋上でのお笠の曳き揃え(24日)は田辺の夏の風物

詩です。全国でも珍しい夜明け前に神殿で営む暁の神事、クライマックスのお笠の宮入(25日)が行われます。笠鉦を出すのは本町(本町組)、福路町・紺屋町・片町(福路町組)、栄町・北新町・南新町(栄町組)、江川町(江川組)です。

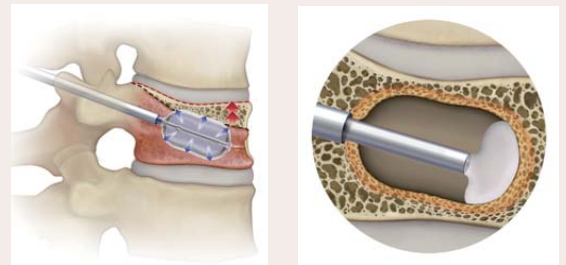


脊椎疾患に対する低侵襲手術

近年、どの医療分野においても手術の低侵襲化が進み、それは脊椎外科においても例外ではありません。脊柱は体幹を支えるまさに中心的な組織であり、その部位を治す目的で行われた手術が、かえって腰背筋を高度に傷害したり、また術後長期の安静臥床を強いたりすることで、その結果体幹筋力が低下してしまうようなことがあれば、それは本末転倒と言わざるを得ません。従来、脊椎の手術は皮切も大きく、かなりの出血も覚悟する必要のある手術で、術後の安静度制限も非常に厳しく長いものでした。そのため、リハビリにも非常に長い時間がかかっていました。もちろん現在でもそのような手術が必要になる場合もありますが、ある程度のcommon diseaseに対する初回手術においては、非常に低侵襲で行えるようになってきました。また、低侵襲であるがゆえに、従来なら手術ができなかった、または積極的に施行できなかった疾患や患者さんに対して、適応が広がってきました。代表的なものに、①腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症・神経根症に対する脊椎内視鏡下除圧術、②骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術、③脊椎外傷や化膿性脊椎炎に対する、経皮椎弓根スクリューを用いた後方固定術などがあります。

①の術式については、和歌山医大整形外科学講座主任教授の吉田宗人先生が、当初は困難と考えられていた脊椎内視鏡手術の術式を確立し、日本初となる症例を和歌山県内において行い、その後、後進を指導しつつ、日本各地から国内留学生を招き入れ、日本中に広まっていったという経緯があります。海外からの見学者も後を絶ちません。吉田先生の尽力により、この術式は保険適応にもなりました。また、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医の数は、日本全国の総数156人中、15人が和歌山の医師で占められており、東京の19人に次ぐ多さとなっています。この術式の普及により、今までの「脊椎の手術は大変なものだ。」という固定観念が覆され、患者さんの中でも脊椎手術に対する恐怖感や障壁が軽減され、手術による症状改善の希望をより容易に持てるようになりました。この術式は低侵襲というだけでなく、モニター画質や手術機器、手術そのものの技術の進歩により従来の手術と比較してもむしろ安全といえる手術となり、まさに脊椎手術におけるパラダイムシフトと言っていい術式となりました。当院では前任者の河合医師が昨年度一年間で140例以上の症例をこの術式で執刀し、田辺地方にこの術式を根付かせました。私も脊椎内視鏡下手術・技術認定医として、当院で引き続きこの手術の普及に努めていきたいと思っております。

次に②の術式ですが、具体的に本邦で広く行われている手技はBalloon Kyphoplastyと言います。2011年1月に保険適用となった新しい術式で、骨折椎体内でバルーンを膨らませることで椎体高を復元させ、同時に骨を周囲に押し付けることで骨折部を安定化させ、できた空隙に骨セメントを充填するという術式です(下図参照)。認定施設でのハンズオンセミナーを受講する必要があり、脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医が在籍している施設でしか施行してはならないという制限はありますが、非常にキレがよく、今まで苦しんでいた骨折の痛みが術後瞬時に消失し、非常に喜ばれる術式です。従来のように保存加療を行った場合、長期臥床による合併症を危惧し、また治ったつもりで離床を開始しても偽関節や遅発性麻痺などに陥る可能性があり、恐る恐る治療をしていたという現状がありました。45分足らずの手術で(全身麻酔が必要ですが)その心配がなくなるということになりました。特に元気な高齢者に発症した場合、その患者さんを寝たきりにさせないためという目的で非常に力を発揮する術式です。口コモティブシンドロームという概念の普及に伴い、健康寿命という概念も厚労省により提唱され、広まってきていますが、健康寿命を維持するのにも一役買う術式であり、当院での一例目をこの4月に行いました。超高齢化社会を迎え、今後、ますます需要が増える術式となっていくかも知れません。



最後に③の術式についてです。MISt(Minimally Invasive Stabilization)と総称される術式のうちの一つですが、脊椎後方固定術に必須のinstrumentである椎弓根スクリューが、近年、経皮的に挿入できるようになりました。この手技により、高エネルギー外傷による胸腰椎および骨盤の高度な骨折を低侵襲で強固に固定できるようになり、Damage Control Surgeryを実現するとともに、早期離床を図れるようになりました。また、経皮で挿入できるがゆえに、化膿性脊椎炎に対して、感染巣を開けることなく脊椎を制動することができ、従来なら感染性病変に金属を挿入することは禁忌とされていましたが、この術式により感染部位を避けて内固定できるようになり、脊椎を制動することで感染部位を安静に保つことができるようになり、かつ患者さんの安静度も上げることができるようになりました。脊椎外傷に関しては、最近南和歌山医療センターからの転院症例が増えつつありますし、また私が同院の方へ赴いて手術をさせて頂くこともあります。

以上、脊椎疾患に対する低侵襲手術のトピックスについて述べました。手術機器や術式の進歩は目覚ましいものがありますが、脊椎疾患はその治療法はもちろん大事ですが、まずは診断が重要です。診断ができないとその技術も生かせられませんし、診断が間違っていたら、どんなにいい手術をしても決して治りません。特に変性疾患の神経罹患高位を同定するのは、難しいことも多いです。手術手技の習熟とともに、確実な診断を行うことも常に肝に銘じて診療に当たるようにしています。

――いつ開業されたのですか？

埼玉の大学を卒業後、埼玉の病院で働いていたのですが、父親から「帰ってこい」と連絡があったので、地元に戻ってきました。帰ってきてからは新屋敷の方で父親と共に串医院をしていましたが、父親が引退を決めたことがきっかけで、現在の中屋敷の串医院を開業しました。開業してから8年目になります。



――地域の会社の産業医をされているのですか？

いくつかしています。毎日ではありませんが、お昼休みの時間を利用して産業医の仕事と往診をしています。

――内科、循環器科を選ばれた理由は何ですか

父親の影響ではなく、心臓のことに興味があったので、循環器科を選びました。

――埼玉の病院で勤務されていたとのことですが、「診療所の方が良い」と感じたことはありますか？

病院と診療所では役割が全然違うので、最初の方は物足りなさもありましたが、今は診療所の役割も必要だと認識しています。往診も大事なことだと思いますので。

――来院される患者さんについて教えてください。

8割ほど高齢者で、糖尿病の患者さんも多いですね。糖尿病の人は高血圧や冠動脈疾患、動脈硬化性の疾患と循環器にかかることが多いので、自然と糖尿病の患者が多くなります。

――検査機器をお持ちなのでしょうか？

詳しい検査はやはり病院にお願いをしますが、睡眠時無呼吸症候群の検査や、心電図、負荷試験機器などは整備しています。糖尿病の患者さんも多いので血糖値等の薬の処方に関わる簡単な検査項目は医院で出るようにしています。委託する検査も「至急で出してほしい」と問い合わせをすれば1時間で結果が分かるようになっています。



――今後、串医院が目指すものは？

高齢者の方の今後をどうしていくか、です。もちろん、元気で長生きが一番ですが長年通院される方も年齢を重ね、最期を迎える中で、病院がいいのか、自宅が良いのかという話にいつもなります。御本人は自宅を希望するのですが、家族の受け入れが困難なパターンもあります。訪問看護師さんやヘルパーさんの力も借りながらどこまで自分自身がしてあげられるのか、いつも考えています。患者さんの意思を優先し、自宅での最期を希望されるのであれば自宅で診てあげる、そのようなことをやっていきたいです。

――この度はインタビューをお受け頂きありがとうございました。先生もお体を御自愛なさり、今後とも互いに連携し地域の医療を支えて頂ければと思います。

がんの緩和ケア研修会を開催しました。

がんの痛みは耐えがたいものですが、がん患者の生活の質を向上させるため、国はがんと診断された初期の段階からがん緩和ケアを提供することを推進しております。この様に昨今、がんの緩和ケアの位置づけが高まっていくにつれて、毎年がん拠点病院が開催するがんの緩和ケア研修会も重要性が高まって来ております。

今年も、7月17日と18日の2日間にわたり、がんの緩和ケア研修会を開催しました。2日とも午前中は緩和ケアを理解するための必要な知識についての講義を実施し、午後に午前中で学んだことを元にしたワークショップを行いました。講義と実技というスタイルでしたが、臨床ですぐに使える知識を得られたと評価される参加者も多数いらっしゃいました。

がんの緩和ケア研修会は毎年実施しておりますので、まだ受講をされていらっしゃらない方は次回是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

病院のまど

第60回市民健康講座

普段、意識せずに行っている食べること。この食べることが上手いできないと誤嚥性肺炎を起こしたり、食欲が落ちたりと様々な問題が生じます。今回の講座では食べることについて、口の中やのどの中を見てもらいながら説明します。食べるということを見てください。

日時 平成28年9月4日(日)

午後2:00~3:00

演題 **近頃、食べている時に
むせませんか?
~食べるをかんがえよう。~**

演者 古久保 良 (紀南病院 言語聴覚士)
宮田 栄里子 (紀南病院 嚥下認定看護師)

会場 紀南病院 3階講堂

※ 時間外入口よりお入り下さい。参加無料・申込不要です。

今日、9月1日は防災の日、「台風高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」ように毎年9月1日を中心として防災訓練等が実施されています。当院では9月15日に消防訓練が実施されます(年2回必須)。私達も、いつか必ず起こるであろう地震に備え普段から防災意識を高めたいと思います。

編集後記

New face さ〜ん



《医師》

おた やすひろ

《整形外科》太田 泰宏

『よろしく願い致します。』

学校便り

7月21日~8月21日

夏休みでしたが、3年生の希望者は国家試験の学習として学校で課題や模試を行いました。

8月2日

学校説明会があり高校生や社会人・保護者の方々が参加されました。

8月19日

新築移転にむけて起工式が行われました。

8月25・26日

和歌山県立白崎青少年の家で1年生の教育研修がありました。

起工式の様子



daikoku 株式会社 **大黒**

本社：〒640-8525 和歌山県和歌山市手平 3-8-43

和歌山事業所 : 〒641-0012
和歌山市紀三井寺855-71

紀三井寺事業所 : 〒641-0014
和歌山市毛見 1111-1

大阪支店 : 〒550-0002
大阪市西区江戸堀 3-5-27

南大阪支店 : 〒594-0031
和泉市伏屋町2-16-11

紀南支店 : 〒646-0011
田辺市新庄町3778-2

神戸支店 : 〒650-0023
神戸市中央区栄町通5-2-6

奈良支店 : 〒630-8115
奈良市大宮町4-295-10
奈良朝日生命川口ビル 1F

関西空港営業所 : 〒590-0523
泉南市信達岡中919-1

新宮営業所 : 〒647-0052
新宮市橋本 2-5-61

東京麹町オフィス : 〒102-0083
東京都千代田区麹町3-5-2
BUREX 麹町 301号

京都丸太町オフィス : 〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入
東丸太町32-3 上田ビル 3F

DAIKOKU MEDICAL SUPPLY

保健・医療・福祉の分野で、

「生命を守る人の環境づくり」を通じて

地域の発展に貢献することが

私達の使命です。

SEIKO MEDICAL
医療の先へ。セイコーメディカル株式会社

■本社
〒640-8287 和歌山県和歌山市手平 3-8-43
TEL. 073-435-2333 FAX. 073-435-2223

■大阪支店
〒595-0012 大阪府北摂中町2丁目5番28号
TEL. 0725-31-3610 FAX. 0725-31-3619

■医大前営業分室
〒641-0012 和歌山県和歌山市紀三井寺768番地の13
TEL. 073-448-3787 FAX. 073-448-3781

■田辺営業所
〒646-0011 田辺市新庄町 2744 番地
TEL. 0739-25-4535 FAX. 0739-25-4578

■新宮営業所
〒647-0072 新宮市 橋本 20 番 22 号
TEL. 0735-31-9130 FAX. 0735-31-9133

■奈良営業所
〒632-0082 天理市荒崎町 56 番地の 4
TEL. 0743-64-3607 FAX. 0743-64-4810